平成 19 年度

びわ湖ホール

# 劇場サポーター活動記録集

滋賀県立芸術劇場
びわ湖ホール
BIWAKO HALL
BIWAKO HALL CENTER FOR THE PERFORMING ARTS,SHIGA

# は　じ　め　に

びわ湖ホール劇場サポーター制度は、滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール開館の 3 年前に発足しました。設計が完了し、いよいよ建設開始、開館に向けての事業準備に取りかかるという時になって「オペラやバレエ、演劇、クラシック音楽などの公演をするというが、観客はいるのか」という懸念の声が寄せられました。舞台芸術の鑑賞機会が少なかった滋賀県においては当然の危惧であったのかもしれません。そこで、準備の段階からびわ湖ホールは、「舞台の創造」と「観客の創造」という二つの創造を目標に掲げて取り組んで参りました。この二つは表裏一体のものです。すばらしい舞台を創造、提供し続けることが観客創造の第一条件であり、また、いい観客がいて初めていい舞台ができ、公演を続けることができるからです。この大切な観客創造の核となるのが劇場サポーター制度ですが、今年度は 12 期生を迎え、延べ 433 名の方に活動をしていただきました。

サポーターの主たる活動は、知人、友人に口コミで舞台芸術のすばらしさを伝え、誘いがなければ開かなかったであろう芸術の世界への扉を拡げるお手伝いをすることです。そのためにはサポーターになった皆さまが、まず、舞台芸術のすばらしさに触れ、感動を共有し、知識を拡げるということが大切であるという視点から研修会や交流会を開催しています。最近では自主交流会も盛んになり、メーリングリストによる情報交換の他アウトドアにも飛び出しての交流と、活発な活動の輪が広がっています。

一方、びわ湖ホールでは、開館以来芸術監督を務められた若杉弘氏にかわり、平成 19 年 4 月より芸術監督に沼尻竜典氏を迎えました。日本最高水準の力を結集し毎年お贈りしているプロデュースオペラの上演をはじめ、新しくスタートしたオペラシリーズ「沼尻竜典オペラセレクション」や、 2 年に一度〈身体表現〉をテーマに開催する「びわ湖ホール夏のフェスティバル 2007 」、その他にもバレエ・演劇・オーケストラ・室内楽・伝統芸能など、今年も多彩なプログラムを上演し、多くの皆さまに感動をお届けすることができました。

また、沼尻監督の「より親しみやすい劇場へ」との提唱により、昨年 8 月にはメインロビーにエラールピアノを設置し、以降月に 1 度ロビーコンサートを開催しましたが、延べ 2,500 人余りのたくさんのお客様にご来場いただきましたことは、舞台芸術に対する興味・関心の高さの表れと感じています。

今年、びわ湖ホールは開館 10 周年を迎えますが、ホールを取り巻く環境は経済・財政の悪化や指定管理者制度導入に基づく運営など、大変厳しいものがあります。しかし、これからも、“創造する劇場”として多くのみなさまに舞台芸術のすばらしさ、楽しさを味わっていただけるよう、さらに努力してまいりたいと考えております。今後とも、より多くの方から愛され、支えていただけるように、サポーターの皆さまの一層のご協力をお願い申し上げます。

2008 年 3 月

滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール

館長　上　原　恵　美

# 目　　次

平成 19 年度劇場サポーター研修の概要

舞台芸術基礎講座〈ダンス編〉 …… 1

エラールピアノ特別講座 …… 2

舞台稽古見学・交流会・鑑賞研修・その他 …… 3

平成 19 年度劇場サポーター自主活動の概要 …… 5

平成 19 年度びわ湖ホール劇場サポーター運営要綱 …… 7

劇場サポーターの声 …… 9

# 平成19年度劇場サポーター研修の概要

## 舞台芸術基礎講座〈ダンス編〉

日　時　平成19年6月17日㈰　10：30～12：00

場　所　びわ湖ホール　研修室

■ 講　　義

標　　題：講義『「びわ湖ホール夏のフェスティバル2007」の楽しみ方』

講　　師：志　賀　玲　子　氏（びわ湖ホール夏のフェスティバル プログラムディレクター）

講義内容：びわ湖ホールが2年に一度開催するダンスイベント「びわ湖ホール夏のフェスティバル」の見どころを、プログラムディレクターの志賀氏が映像などを交えレクチャーした。

### Profile　志賀　玲子氏

神戸女学院大学文学部卒業。
1990年より兵庫県伊丹市立演劇ホール（アイホール）プロデューサーとして、アイホールダンスコレクションを中心に企画製作。
NPO法人JCDN（Japan Contemporary Dance Network）ならびにDANCE BOX理事。
2005年大阪大学コミュニケーションデザインセンター特任教授就任。
2000年から「びわ湖ホール夏のフェスティバル」のプログラムディレクター。

# エラールピアノ特別講座

日　時　平成20年1月5日㈯　16：30～18：00

場　所　びわ湖ホール　研修室（講義）
　　メインロビー（ミニコンサート）

■ 講　　義

標　　題：講義「ピアノってナニモノ？～モダンピアノの原点・エラールによせて～」

講　　師：松　竹　織　代　（びわ湖ホール事業部 職員）

講義内容：びわ湖ホールメインロビーにこの夏設置されたフランス・エラール社製ピアノにちなみ、ピアノの歴史、種類、様々な視点からみたピアノの存在についてなどのレクチャーを行った。レクチャー後、劇場サポーターの演奏によるエラールピアノミニコンサートを行った。

## 劇場サポーターオリエンテーション

日　時　　平成19年4月22日㈰　10：00～11：00

場　所　　びわ湖ホール　研修室

■ 職員よりの挨拶、劇場サポーター制度の概要および活動についての説明

## 『ツェムリンスキー・プロジェクト①シンポジウム』

### 「ツェムリンスキーの音楽とその時代～ウィーン20世紀初頭の芸術家たち～」への参加

日　　時　平成19年4月22日㈰　13：30～16：30

場　　所　コラボしが21　大会議室

■ 作曲家ツェムリンスキーについてのシンポジウムへの参加

※ 一般の方向けの企画ですが、サポーターも参加しました。

## 『わくわく☆ドキドキ♡劇場探検ツアー』ゲネプロ見学

日　　時　平成19年8月24日㈮　20：00～21：30

場　　所　びわ湖ホール　大ホール

■ ゲネプロの見学

## 沼尻竜典オペラセレクション『こびと～王女様の誕生日～』稽古見学

○ 立ち稽古見学

日　　時　平成19年11月17日㈯　14：00～16：00

場　　所　びわ湖ホール　中ホール

○ オーケストラ合わせ見学

日　　時　平成19年11月19日㈪　13：00～15：00

場　　所　京都市交響楽団練習場

○ 公開ゲネプロ見学

日　　時　平成19年11月23日（金･祝）　14：00～16：00

場　　所　びわ湖ホール　大ホール

■ 稽古見学

※ 公開ゲネプロ見学は青少年向けの企画ですが、サポーターも参加しました。

## びわ湖ホールプロデュースオペラ　歌劇『ばらの騎士』プレトーク・マチネへの参加

日　　時　平成20年1月5日㈯　14：00～16：00

場　　所　びわ湖ホール　中ホール

■ 指揮者の沼尻竜典氏らによる公演の観どころ、聴きどころの解説とキャストによる演奏

※ 一般の方向けの企画ですが、サポーターも参加しました。

## 劇 場 サ ポ ー タ ー お 茶 会

日　　時　平成20年1月26日㈯　13：30～

場　　所　びわ湖ホール　研修室

■ 劇場サポーターとびわ湖ホール職員の交流・意見交換の茶話会

## びわ湖ホールプロデュースオペラ　歌劇『ばらの騎士』ゲネプロ見学

日　　時　平成20年2月1日㈮　15：45～

場　　所　びわ湖ホール　大ホール

■ ゲネプロの見学

## びわ湖ホールプロデュースオペラ　歌劇『ばらの騎士』ワークショップへの参加

日　　時　平成20年2月3日㈰　10：00～

場　　所　びわ湖ホール　大ホール

■ 舞台装置や衣裳の解説など

※ 一般の方向けの企画ですが、サポーターも参加しました。

## 舞台芸術　公演鑑賞研修

様々な舞台芸術に触れていただくため、びわ湖ホールの主催公演を「オペラ・オーケストラ編」「演劇・ダンス編」「室内楽・びわ湖ホール声楽アンサンブル定期公演編」の3ジャンルに分け、各編より1公演ずつ、年間計3公演を観ていただく「公演鑑賞研修」を実施。

# 平成19年度劇場サポーター自主活動の概要

## 1．サポーターの集い・ミニ部会（ジャンル別）の開催

| | | |
|---|---|---|
| ⑴ | 4月 7日㈯ | ハイキング（賤ヶ岳） |
| ⑵ | 4月22日㈰ | 新サポーター歓迎交流会 |
| ⑶ | 4月28日㈯ | オペラ・声楽分科会<br>ランチを食べながら、オペラ・声楽曲のビデオなどを鑑賞＆語り合い |
| ⑷ | 5月 | “Harmonia”春号　発行 |
| ⑸ | 5月26日㈯ | 演劇・古典芸能分科会<br>“「籠釣瓶花街酔醒」にみる歌舞伎の楽しみと、歌舞伎鑑賞の‘いろは’” |
| ⑹ | 6月17日㈰ | シンフォニー・器楽分科会<br>ランチを食べながら、シンフォニーや器楽曲のＣＤを鑑賞＆語り合い |
| ⑺ | 7月 7日㈯ | ハイキング　“中山道（彦根市大堀～醒ヶ井）を歩く” |
| ⑻ | 7月16日（月･祝） | バレエ・ダンス分科会　“全幕バレエ「椿姫」の鑑賞” |
| ⑼ | 8月26日㈰ | 演劇・古典芸能分科会<br>“ざっくばらんに演劇のお話しましょうか?!”<br>懇親会　びわ湖ホール内「レストラン オペラ」にて |
| ⑽ | 9月 1日㈯ | シンフォニー・器楽分科会<br>“「沼尻竜典指揮ＮＨＫ交響楽団」公開リハーサル見学” |
| ⑾ | 10月 6日㈯ | オペラ・声楽分科会<br>オペラ「こびと」「アーサー王」について |
| ⑿ | 11月 | “Harmonia”秋号　発行 |
| ⒀ | 11月 4日㈰ | バレエ・ダンス分科会<br>“シルヴィ・ギエムの魅力について” |
| ⒁ | 12月15日㈯ | 演劇・古典芸能分科会　“宝塚は REVUE de Show”<br>懇親会 びわ湖ホール内「レストラン オペラ」にて |
| ⒂ | 1月26日㈯ | オペラ・声楽分科会<br>オペラ『ばらの騎士』の観どころ・聴きどころ |
| ⒃ | 2月10日㈰ | バレエ・ダンス分科会<br>“国際バレエコンクールを見てみよう！” |
| ⒄ | 2月16日㈯ | ハイキング　“中山道高宮宿～愛知川宿＆酒蔵見学” |
| ⒅ | 3月 8日㈯ | シンフォニー・器楽分科会<br>“自作真空管アンプでLPレコードを聴こう！” |

## 2．サポーター通信の発行

サポーター同士のコミュニケーションを図り、びわ湖ホールをはじめとする、あらゆる舞台芸術の面白さを外部に向けて発信することを目的とした「サポーター通信」は、1998年10月から1999年6月までに創刊準備号、創刊準備第2号、創刊準備第3号。そして2000年には名称を“Harmonia”（ハルモニア）として昨年までに創刊号 ～ 第19号、今年は第20号～第21号を発行した。

⑴　5月　“Harmonia” 第20号

⑵　11月　“Harmonia” 第21号

## 3．サポーターメーリングリスト

サポーター同士の連絡・交流用に、メールアドレスを持っているサポーターを登録。

公演の感想やミニレクチャーなどに幅広く活用されている。

## 4．ビデオライブラリー

サポーター個人から寄贈された200本余の「オペラ公演ビデオテープ」を整理して、サポーターの誰もが自由に借り出して観ることができるようにしている。

# 平成19年度びわ湖ホール劇場サポーター運営要綱

## 1．趣　　旨

地域や職場、友人など、人のネットワークを生かして、びわ湖ホールとそこで上演される舞台芸術を生活に身近なものと感じる愛好者の輪を広げることを目的に、びわ湖ホール劇場サポーター（以下「劇場サポーター」という。）を設置します。

## 2．劇場サポーターの役割

⑴　劇場サポーターは、ボランティアとして、舞台芸術に関する情報やびわ湖ホールの公演情報を地域や職場等に届けていただき、チケットの販売促進につなげていただきます。

⑵　舞台芸術に関する地域の情報や、びわ湖ホールでの公演の評価および提案を随時提供していただきます。

⑶　びわ湖ホールは、劇場サポーターの自主的な活動を尊重し、劇場サポーター間の交流を図ります。

⑷　劇場サポーターは、びわ湖ホールの公演や地域の情報だけでなく、劇場サポーターの運営に関し提案することができます。

## 3．劇場サポーターの定員と登録

公募により選ばれた方を劇場サポーターとして登録し、定員は100人、登録期間は3年間とします。（再任は1回限り・最長任期6年）

## 4．平成19年度活動

⑴　舞台芸術に関する研修の受講

・基礎講座

・ワークショップ

・鑑賞研修

・舞台稽古の見学、プレ・トーク等の関連事業への参加

⑵　舞台芸術の公演鑑賞研修

劇場サポーターの舞台芸術に対する理解を深めるため、びわ湖ホール主催公演をジャンルごとに選択し、鑑賞していただきます。

⑶　舞台芸術情報やびわ湖ホールにおける公演情報の地域や職場、友人等への広報

・口コミによるPR活動

・先行予約の受付

⑷　舞台芸術に関する地域の情報、およびびわ湖ホールにおける公演に関する友人などの感想や反応等の報告

・劇場サポーターレポートの提出

・活動記録集用の原稿提出

⑸　自主活動

・交流会、レクチャー会などの開催

・劇場サポーター通信（Harmonia）の発行

## 5．劇場サポーターの内訳

【期　別】

| | |
|---|---|
| 10期 | 18名 |
| 11期 | 28名 |
| 12期 | 30名 |

【年齢・性別】

| | |
|---|---|
| 男 性 | 21名 |
| 女 性 | 55名 |
| 10 代 | 5名 |
| 20 代 | 8名 |
| 30 代 | 16名 |
| 40 代 | 12名 |
| 50 代 | 19名 |
| 60 代～ | 16名 |

【住所別】

| | |
|---|---|
| ●滋賀県 | 47名 |
| 大 津 市 | 27名 |
| 草 津 市 | 6名 |
| 守 山 市 | 2名 |
| 野 洲 市 | 1名 |
| 湖 南 市 | 1名 |
| 甲 賀 市 | 1名 |
| 東近江市 | 3名 |
| 彦 根 市 | 2名 |
| 長 浜 市 | 1名 |
| 高 島 市 | 2名 |
| ●京都府 | 18名 |
| ●大阪府 | 9名 |
| ●兵庫県 | 1名 |
| ●福井県 | 1名 |
| ●愛知県 | 1名 |
| ●岐阜県 | 1名 |

計　76名

# 劇場サポーターの声

## *ブラボー！　びわ湖ホール*

子供の頃の楽しみは、映画でした。テレビもあまり普及しておらず、
月一回、学校行事として見に行ってました。病気で欠席した時は父にねだって
夜連れってもらいました。それ以外は禁止されていたので‥‥

ニュースが始まると、拍手。映画が終わると、拍手。
京都に来て、自由に映画が見れるようになり‥‥見終わった後、拍手がありま
せん。これって、都会流？　スマート！　クール！

最近何年かぶりで映画を見ました。拍手がありません。シィーンとして。
オペラの映画でさえ～。

コンサート、歌舞伎、文楽、オペラ‥‥掛け声、拍手、ブラビィー
やっぱりこうでなくては、同じものを同じ空間で観た者同志、感動を共に。

びわ湖ホールのオペラ、ちょっとブラビィーが少ないのでは、
去年の　＜こびと＞　！
でないと、誤解されかねない。白けてるとか　何とか‥

怒涛のような拍手とブラビィーでびわ湖ホールを沸かせましょう！

１０期　伊藤恵子

劇場サポーター活動報告
第１０期
片岡　志津子

三年間サポーターとしてびわ湖ホールの催しや集まり等参加させていただきましたが、正直私がサポーターとして役に立てたかと言うと不十分だったと思います。
早すぎた、というか、自分がもう少しバレエやオペラ、クラシック等の分野に踏み込んでからサポーターになっていればもっと活動範囲が広げられたし、びわ湖ホールにはもちろん、友人や知人にも有益だったと思います。
自分なりに　送っていただいたチラシを職場に設置、
興味のありそうな人には公演開催を知らせる、友人を誘う等しておりましたが、
チケット取りまとめなどはほんの限られた公演に対してのみでした。
たいした活動をできないまま終えるのは心苦しいですが、研修や、
見学等の色々な機会に得たホールの情報や知識を周りに伝えて
ホールのファンを増やせれば、と思います。
交通手段が少し不便ではありますが周りの環境は抜群ですので
公演によって県外から来る友人達にはホールとして至極好評です。
私は幸運にも自転車でいける距離にいますので
今後もびわ湖ホールで何をやっているか、チラシ等で確認して
足を運びたいと思います。

「塀の外の懲りない面々」

びわ湖ホールを「税金の無駄遣い」だと言ったかつての上司に激怒してサポーターに応募し、早くも三年。幸い同じ暴言に出会うことはその後なかったけれど、でもやっぱり、距離感とか温度差とか呼ばれる微妙な空気はひしひしと感じる。舞台芸術というものは（特にずっと“外側”にいた人にとっては）まだまだ敷居が高いらしい。いや、敷居というよりベルリンの壁みたいな強固な壁が芸術をぐるっと取り囲んでいて、彼らを拒絶しているように見えるらしい。たとえそんな壁が本当にあったとしても、そこには小さな扉がたくさん開いていて、誰でもどこからでも簡単に入れるようになっているのに。

チラシを配るにしても、「実はこういうのやっててね…」と手渡した時の「え？　何ですかコレ？」という風な戸惑いの表情にはすっかり怯んでしまう。同世代の友人たちは仕事と恋愛で手一杯のようで(笑)、オペラとかバレエは裕福な有閑マダム et ムッシュの道楽だと思っているらしい。結局、一年めで早々に方針転換し、もともと音楽やダンスや演劇に興味のある人にだけひっそりと PR をするようになってしまった。

総括としては、私のサポーター活動は「高い！」と「その日は仕事！」との闘いだった。私自身お金にも時間にもあまり余裕がなくて、びわ湖ホールから足が遠のきがちなことは否めない。自主交流会には一度も参加できず、クレジットカードを持っていないので頼まれたチケットはもっぱら電話予約かカウンターで取るというヘタレサポーターのまま任期が過ぎてゆき…。三年目でようやく『ハルモニア』の編集を少しだけお手伝いできたのが唯一の貢献と言ってもいいようなていたらくで。

でも「びわ湖ホール」という“舞台芸術を守る砦”がそこにあるというだけで、心強いような気持ちになるから不思議だ。…これじゃ「私」が「劇場サポーター」なのか「劇場」が「私サポーター」なのか解らないや。とにかく、私が税金を払うのはびわ湖ホールのためだし、心の中では消費税も酒税も住民税も、私が払ったぶんは全額びわ湖ホールの運営に役立てられていると固く信じている（平成 16 年度の活動記録集を読んでいたら「赤字」「赤字」と書かれていて悲しくなってしまった。ああ、宝くじで三億円が当たったら！！とか馬鹿なことを考えてもみるけれど、そもそも買っていない宝くじが当たるわけはなく）。ともあれ今後もずっとびわ湖ホールを応援していきたいという気持ちだけは真実だ。

最後に。びわ湖ホールとその運営に関わるすべての方々に、たくさんの感謝と惜しみない称賛の拍手を、心から。

第 10 期　　佐藤　彩子

## ♪サポーター活動のこれから

10期　神野 直子

びわ湖ホール劇場サポーター制度は、まもなく13年目を迎える。しかし、ただ続いているだけでは十分ではないだろう。多くのサポーターが充実感を持って任期を全うし、任期終了後もびわ湖ホールを応援し続けたいと思うようになって初めて、びわ湖ホールは真のサポーターを獲得したといえるのではないか。サポーター制度について私なりに考え続けてきたことを述べてみたい。

### 1. サポーターが「応援団」になるには――もっとコミュニケーションを！

サポーターはびわ湖ホールの「応援団」だと言えるが、ただ「サポーター」という肩書を与えられただけで即「応援団」になるわけではない。びわ湖ホールで様々なコミュニケーションを体験することで「応援団」になっていくのだと思う。何よりもまずびわ湖ホールでの素晴らしい公演（これも一種のコミュニケーション）との出会いが必要であることは言うまでもない。しかし、それだけでは一般の観客と変わりがない。ホールとサポーターとの関係を深めるのに大きな役割を果たすのが、基礎講座や研修だ。これらは舞台芸術に対する理解を深める機会であるとともに、スタッフとサポーター、そしてサポーター同士が言葉を交わすことができる貴重な交流の場でもある。また、講座や研修それ自体がホールとサポーターとの効果的なコミュニケーションになり得る。「こびと」に関する一連の研修（立ち稽古や舞台の仕込みからオケ合わせ、ゲネプロの見学、そして本番鑑賞まで）は、一つの舞台が出来上がるまでの過程を見せて頂いたことで、忘れがたい体験となった。リハーサル室で青少年オペラの稽古を間近で見たり、基礎講座で出演者やスタッフのお話を直接伺ったり、技術スタッフに舞台裏を案内して頂いたのも印象深い。舞台を創っているたくさんの方々の真剣な努力を目の当たりにし、彼らの熱意が伝わってくると、こちらもそれに応えようという気持ちが湧いてくるし、ホールが身近に感じられる。今後もこのような研修や講座を続けていただけたらと思う。

これに加えて、企画・営業や広報その他の部門のスタッフからびわ湖ホールの運営について教えていただくという講座もあってよいのではないか。単なるレクチャーではなく、その中でサポーターのアイディアや意見を直接伝え、スタッフと意見交換ができれば、お互いにとってより実のあるものになるだろう。日頃接する機会の少ない部門の職員さんとも話ができるし、サポーターレポートでの提案に対する反応を受け取る機会にもなる。何よりも、スタッフとサポーターが直接コミュニケーションを図ることで新しい何かが生み出せるかもしれないし、観客の視点を持つ私たちをより効果的に利用していただけるのではないだろうか。更に、ホールとサポーターが協力して、またはサポーターが中心となって基礎講座を企画・運営することがあってもよいのではないか（例えば、プロデュースオペラに合わせて、1月のオペラ分科会で実施した様なDVD鑑賞会等を企画しては？）。企画・運営の過程で双方が直接話し合う機会を持つことができるし、講座内容そしてサポーター活動の内容の充実につながると思う。

もう一つ大切なのが、サポーター同士のコミュニケーションだ。一人でチラシを配るだけでは達成感や楽しさを感じにくいが、自主交流会等に足を運び他のサポーターと親しく交流することで視野が広く深くなり、ホールに行く楽しみも増える。自主交流会を、鑑賞経験の多少にかかわらず誰もが気軽に参加できる場、好きなジャンルや年齢の垣根を越えて交流できる場として、皆で話し合い、協力して今以上に盛り上げていきたい。交流の中から生まれたアイディアなどもホールにどんどん伝えたい。サポーター同士だけでなくサポーターとホールとの交流の場にも、更にはサポーターの新たな可能性を探る場にもなれるといい。

素晴らしい設備を誇るびわ湖ホールも、それだけではただの「ハコ」である。その「ハコ」で生み出される贅沢なコミュニケーション―舞台と出会い、舞台を創り出す人々の情熱に触れ、スタッフや他のサポーターと交流する、つまり「ハコ」を拠点として様々なコミュニケーションを体験して初めて、サポーターにとって「ハコ」は血の通った「自分たちの劇場」となり、他のホールとは違う「特別の存在」として愛し、応援しようという気持ちになるのだと思う。**豊かなコミュニケーション、人と人とのつながりがあってこそのサポーター制度**ではないだろうか。

### 2. サポーターにはもっと可能性がある

一人一人が周囲の人に舞台芸術の楽しさを伝えて観客の創造につなげるという活動はユニークなものだ。特別な知識や技能がなくても気軽にできる。が実際は、舞台芸術に興味がある人に対してもチケット販売にまで至ることは稀だし、ましてや興味のない人を振り向かせるのは至難の業。一人が声をかけられる範囲も知れている。このような活動だけでは手応えや喜びを感じにくく意欲の維持が難しいと感じるのは私だけだろうか。また、熱心に自主交流会活動をしてみてもどこか物足りない思いが残るのだが、それはなぜだろう。結局は、ホールの周りに目に見えない垣根があって、サポーターはその垣根の外側で色々やっているにすぎないからではないか。大好きな舞台芸術やびわ湖ホールのために役に立てばと応募したサポーターは多いと思うが、これではその熱意が十分活かされているとは言い難く、勿体ない。このあたりでサポーターの立つ場所を一歩内側に進めて、観客とホールをつなぐ存在として、より積極的に、多様な形で活用していただくのはどうだろう。ホールが「敷居の高い場所」として敬遠されることを防ぐためにも有効ではないかと思う。上で提案したサポーター自身の企画による講座や自主交流会分科会で一般の人にも興味を持ってもらえそうなものをサポーター以外に公開するのもいいし、サポーター独自の視点で公演の楽しみ方やお勧めポイントなどを紹介するPRチラシを作ることもできる。意欲のあるサポーターが集まって、職員さんではなくサポーターだからこそできることがないか話し合えば、可能性はたくさんあるのではないか。ホールとも協力してサポーター自身がこの制度を育てていきたいものだ。

びわ湖ホールは「公共」のホールだ。サポーターはじめ観客や地域住民を、ホールが提供する公演をただ享受するだけの存在としてではなく、「共に」ホールを育てていく存在として見ていただければありがたい。重い責任を負ってホールを運営する職員さんとは、立場もできることももちろん違うが、まずはサポーターがもっと多様な形で活動し参加出来るようになることが、沼尻監督のおっしゃる「県民に親しまれる劇場」の実現にもつながるし、滋賀の文化振興にも役立つのではないだろうか。

びわ湖ホールのサポーターとなって7年。私の任期は3月で終わるが、4月以降もOBサポーターとしてびわ湖ホールを応援し続けたい。そんな気持ちにさせてくれた数々の素晴らしい舞台と、その舞台を創り出してくれたびわ湖ホール、そしてびわ湖ホールで出会うことのできた素敵な人々すべてにあらためて感謝したい。

# 6年の劇場サポーターの活動を通して

10期　西村 茂美

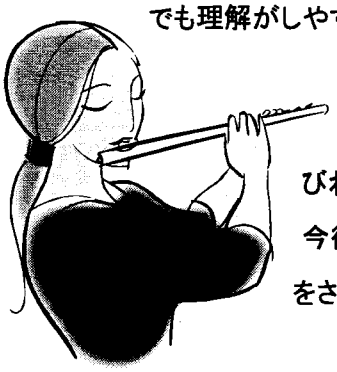
第4期、第10期の合計6年をびわ湖ホールサポーターとして活動をさせていただきました。

最初は、滋賀県にできたとてもステキな劇場にサポーターとして関わることができるという期待だけで満足しておりましたが、サポーターとして活動していく中で、今までにあまり積極的にチケットを取ることのなかったジャンルの舞台も数多く見ること、聞くことができました。
また、サポーターの方の中には、それぞれお得意の分野があり、その方たちのお話を聞かせていただくのも楽しみの一つでした。

サポーター活動の中で、やはり一番の財産は沢山の舞台に出会えたことと、沢山の同じ趣味を持つ友人に恵まれたことです。

滋賀ではまだまだ「劇場に足を運んで舞台を鑑賞する」という習慣が根付いておらず、「びわ湖ホールのサポーターをやっている」というだけで、「そんな小難しいことをやっているんだ」と受け取られてしまうことがあります。

でも、日本一眺めのすばらしいびわ湖ホールのホワイエからの琵琶湖をもっと沢山の滋賀県在住の方に体験していただきたいと思います。
そのためにも、もっと親しみやすい劇場としてびわ湖ホールで無料のコンサートを開いたり、誰にでも理解がしやすいミュージカルなどの公演が増えていくといいなぁと思います。



サポーターの活動は今期で終了となりますが、気分はいつまでもびわ湖ホールのサポーターであり続けたいと思っています。
今後は OB として、現役のサポーターの方の活動を陰ながらお手伝いをさせていただければと思っております。

# 第７期からの６年間をふりかえって・・・

第１０期　横　井　靖　男

わたしと、びわ湖ホールとの出会いは、２０００年７月の中村紘子のピアノ演奏会（オーケストラアンサンブル金沢）でした。彼女は、カレー・ルーのコマーシャルでおなじみなので、一般受けするのか、日ごろクラシック音楽の演奏会にあまりなじみのないような観客が多く見受けられ、そのせいか観客のマナーがたいへん悪く、最初の指定席から移動した後もまた別の観客が演奏中にプログラムをわけもなくめくったりして、びわ湖ホールの最初の印象は最悪だったように記憶しています。クラシック音楽鑑賞の最低限のルールを知らないお客さままで来てくれるのは、クラシック音楽やホールにとって喜ばしいことではありますが、ホールとしては、上記のような演奏会のときに、観客のマナーをいかに向上させるかが、ひとつの課題であろうと、アンケートに苦情を記したこともありました。

その時、「こんなホールには２度と来るものか！」と決心したはずなのに、しばらくして、友の会に入会し、０２年４月から第７期のサポーターにまでなった（その頃は、サポーターになるのに、館長さんなどの「面接試験」がありました）のですから、まったく、人生というものは、不可思議なものです。

わたしは、オーケストラや弦楽アンサンブルやホームコンサート（自宅でもっぱらモーツァルトのピアノ協奏曲）で楽しんでいるアマチュア音楽家なので、何かびわ湖ホールに貢献することがあるはずなのですが、なかなか思い通りにはいかないことが多いのです。それでも、一例を挙げると、自宅でのコンサート仲間たちが、若杉さん指揮の都響に聴きに来てくれたことがありました・・・「都響は弦がきれいだ！」というのが、その理由でした（Ｎ響には来てくれませんでした・・・）。

しかも、わたしは、「オペラはモーツァルトしか観ない」（最近は、海外からの公演も、レヴェル<敷居>を高くしているので、どんな公演でも行くということはない）という「信念」を抱いているものですから、サポーターとしては失格の部類に入るのではないかと、懸念していますが、それでも、その信念を破って、「プロデュース・オペラ」は観ていますので、サポーターになってから、少しは人間としての幅が広くなったといえるのでしょうか・・・。

それと、声楽アンサンブルの定期演奏会では、わたしの指定席を確保しています（声楽アンサンブルでは、ルネサンス期のアカペラでのポリフォニー合唱曲（宗教曲・世俗曲）が聴きたかったので、何度か『Ｈａｒｍｏｎｉａ』に投稿したり、アンケートに記載したりしたのですが、残念ながら実現していません・・・「各声部ひとり・アカペラ」という条件でお願いしたいです・・・０８年４月の定期演奏会にもルネサンス期の本格的なポリフォニー曲は含まれていません・・・）。

サポーターの自主交流会の６年間の活動のうち、いくつかささやかな例を挙げておきます。

*『Harmonia』* 投稿　：　機会があれば投稿するようにしました

０２年９月　講演　：　サポーターによる芸術講座 ***「モーツァルトのオペラ『魔笛』を１．５倍楽しむ方法――オペラでオーケストラも聴く楽しみ」***

０６年４月　企画　：　サポーター・ハイキング　♪ *京の西山に咲くカタクリの花を求めて・・・* ♪

０６年９月　演奏　：　自主交流会　シンフォニー・器楽分科会（於：リハーサル室）　***弦楽四重奏演奏***（仲間と）

０７年２月　講演　：　自主交流会　シンフォニー・器楽分科会　***「スコア・リーディング超入門」（小林道夫教授の大人のための音楽の時間 モーツァルト特別講座　解説）***

この「小林道夫教授の大人のための音楽の時間」は、とってもいい演奏会で、その日に演奏される曲目をスコアで提示したり、ＣＤをお聴きかせしたりして、解説しましたが、その時のＤｉｖｅｒｔｉｍｅｎｔ（喜遊曲）という弦楽トリオ（ディヴェルティメント変ホ長調 Ｋ．５６３より　第４楽章アンダンテ、第６楽章アレグロ）の演奏の素晴らしかったことが、いまだに忘れられません。わたしの解説の中でお見せした『毎日モーツァルト』のＤＶＤは、０６年にＮＨＫで放映された「グラス・ハーモニカ」という楽器とこの曲が作曲された由来を解説したもので、演奏会終了後、小林教授に差し上げたこともありました。

この６年間に、たいした活動もしていませんが、神野さんはじめサポーターお世話役の方々、歴代のサポーター係の皆さんにはたいへんお世話になりました。それと、自主交流会のほかにも、サポーターどうし（ふしぎな体験なのですが、年齢・性別を超越した、ステキな仲間ができました）の自宅を訪問しあったり（そういえば、京都の西山の自宅で、「びわ湖大花火観賞会」「焚き火で焼き芋会」などをしたこともありました）、嵯峨野を散策したり、わたしの弦楽アンサンブルの演奏会にたくさんのサポーター仲間が来てくださったり（０６年のクリスマス・コンサートには、テノール歌手の畑儀文（彼が中学時代からのオケ仲間、当時クラリネットの名手）さんに賛助出演してもらえました）、とってもいい６年間でした。

今後も、ＯＢとして、わたしのできる範囲でのお手伝いはしていきたいと、考えています（サポーター仲間との演奏が実現すれば、いいですね・・・）。

さいごに、ひと言・・・びわ湖ホールにとって、サポーターの提言は、内々からの眼と外部からの眼がないまぜになった、厳しいが温かい意見だと思いますので、ホールとして、真剣に採り上げられれば、かなり成果が上ると思います。

今後ともよろしくお願いします。

（２００８年１月２３日）

「愚直に継続」

（11期）　酒井寛治

８期サポーターから継続して５年間が経過し、任期は残り１年となった。
これまでの活動を振り返りながら、新たな気持ちで最後の１年を活動したい。

<サポーターの活動>

マンネリズムに陥っていることは否めないが、「継続は力なり」との言葉を信じて、毎月送られてくるチラシの回覧、掲示、配布などを愚直に実行している。

こうしたなかから、回覧を続けている我が町内ではびわ湖ホールへ足を運ばれる方ができ、公演の折りにホールで顔を合わせることが１度ならずあり、少しは効果が出てきたのかと喜んでいる。

また、市役所ロビーの開架にチラシを並べていると、声を掛けて下さる市民の方や、市役所の職員があり暫し談笑、チャンスとばかりＰＲに努めている。（なお、公演日の過ぎた古いチラシは、受付コーナーの女性職員が気を利かせて撤去して下さり大変助かっている。）チラシの減り具合を見て演目の人気度、関心度を推し測り、これがチケットの売上に繋がっていてくれることを願っている。

このような、びわ湖ホールと公演情報を広く知って貰う作業の他、もっと狭い範囲への情報発信として、友人、知人、職場の同僚へピンポイントで、それぞれの興味に合わせてチラシを郵送し勧誘を行っている。

地方自治団体の多くが財政の苦しいなか、こうした文化施設の運営についてあれこれと論議があり、滋賀県も御多分に洩れずと聞く。しかし、我がびわ湖ホールは日本有数の設備と、世界有数の環境に立地している滋賀県が世界に誇る財産である。ホールは単なる「箱」であってはならないとの理念の下、全職員一丸となって真摯に舞台芸術の創造に取り組まれ、ここから発せられる舞台芸術の多くが斯界への大きな刺激となり、滋賀県の文化度を世界に向けて知らしめしているのである。こんな立派なびわ湖ホールのサポーターとして活動できることを喜び、ホールの益々の発展のために、ささやかではあるが一層尽力していきたい。

<自主交流会の活動>

サポーターの皆さんは、それぞれに関心の深い、あるいは得意なジャンルをお持ちであるが、それ以上に「びわ湖ホールが好きで好きで堪らない！」人達なのである。私もびわ湖ホールが好きなことに於いては人後に落ちないと自負している。

こんな仲間たちとの交流を広げられることが楽しく、またサポーターの皆さんに喜んでいただけることが嬉しく自主交流会の活動の世話役を務めてきた。この１年、多くのサポーターの力を借りながら、５人の世話人(＊)の方々と共に、年間計画どおりの行事を実施することができた。

世話人の居ることが自由な交流活動の妨げになってはいないかと、絶えず自問自答を繰り返しながら、裏方としてお世話役に徹しているつもりである。多くのサポーターの様々な企画が活発に展開され、それこそ世話人などが不用になる文字どおりの「自主」交流会になることを願っている。（このことは、昨年度の活動記録にも書きました。）

＊世話人：神野さん(10期)、伊藤さん(10期)、井関さん(11期)、西村典さん(11期)、松居さん(OB)

# 自主交流会研修会バンザイ

11期 西村典子

サポーター5年目もびわ湖ホール中心の生活でした。
その中でも私の気持ちの比重が高かったのは自主交流会の研修会でした。私は自主交流会の世話役なので、研修会の運営がスムーズに行くように出来るだけ多くの研修会に参加したのですが、世話役の仕事でというよりは1人のサポーターとして1つでも多くの研修会に出席して、他のサポーターの方々の溢れんばかりの知識のおすそわけをいただき、いろいろな事を吸収したいという思いの方が強かったと思います。又、自分の出来る事で何かお役に立てればと思い、研修会の講師も続けています。

サポーターの現役やOBの方で研修会の講師役を何回も引き受けて下さる方に加えて、新しく講師役を引き受けて下さる方も増えて来ました。今後もどんどんと新しい方の参加で研修会の開催回数を増やしていける様になればと思っています。

その一方で、ホール側から公式に開催される講座や見学会が減っている様に思っていました。そこで、サポーター側からホールへの要請により稽古見学会を復活していただいた事はとても良かったと思います。特にオペラ「こびと」の見学会では、立ち稽古→打合わせ→ゲネプロ→本番と順を追って見て行くうちに、作品が膨らんで行く様子や、1つの場面にかけられている出演者やスタッフの思いの強さを実感して、理解を深めて本番に臨むことが出来ました。稽古見学会は通常では見る事が出来ない稽古の段階を見る事によって作品に愛着が湧く上に広報活動にも自然に力が入るので、これからもずっと続けて欲しいと思います。

自主交流会とホール側とのコラボレーションとして特筆されたのが「エラールピアノ特別講座」です。当初は自主交流会の研修会としてコンサートだけが提案されたものでしたが、ホール側からの公式講座としてバージョンアップされたものになりました。

これからも、自主交流会とホールが協力してサポーター活動がより充実したものになる事を願っています。

そして、私の現役サポーターとしての最後の1年がさらに充実した1年になるよう自主交流会の世話役としても、サポーターとしても完全燃焼出来ればと思います。

# 大好きな「びわ湖ホール」のサポーターをさせてもらって、、、

12期　　宇高　節子

美しい琵琶湖畔に建つ素晴らしい本格的なオペラハウスである「びわ湖ホール」が大好きで、以前から、よくオペラやコンサートに通っていました。2000 年まで、大津市民でしたので、「びわ湖ホール」を「我が街の素敵なオペラハウス」と友人たちに自慢しながらも、他のオペラハウスやコンサートホールと比べて、足りないところも時々気がつきましたので、「良い点」「改善した方がいい点」等々、いつも「余計なお世話かしら」と思いつつも、アンケート用紙に書き込んでいました。ですから、去年の四月からサポーターとして「びわ湖ホール」に少し関わらさせていただいて、大変嬉しく思っています。

若い頃から、ただただ好きで沢山のオペラ、バレエ、お芝居、コンサート等々を見聴きしてきました。サポーターをさせていただいてからは、自主交流会や舞台裏見学ツアーやゲネプロ見学、ワークショップ等々、多くの教わる機会をいただきましたこと、大変感謝しています。その上、今年は新年早々、サポーター仲間にエラールピアノで伴奏してもらって、素晴らしいロビーで歌まで歌わせていただくという貴重な経験をさせていただきました。歌の出来はともかくとして、本人はとっても気持ち良くて大満足でした（笑）！　　ありがとうございました。

以前から楽しい老後のために、オペラやバレエを一緒に楽しめる友人の輪を作りたいと思っていましたので、「びわ湖ホールの宣伝」や「チケット売り上げ協力」も兼ねて、「オペラもバレエも未体験の友人たち」にせっせと「お誘い」をかけて、事前にＤＶＤやＣＤを鑑賞し貰って、一緒にびわ湖ホールへ出かけました。少しずつ着実に仲間の輪が広がりつつあります。また、チケットの売り上げに協力したくて、大きな団体にチケットの斡旋を依頼したりもしましたが、サポーターは、あくまでもボランティア、あまり差し出がまし過ぎてもいけないのかしらと悩んだりもしながら、自分の出来ることから一歩ずつ、少しでもお役に立てばと願いつつ、活動しております。

同じ趣味を持つサポーターの方々と懇意にさせていただいて、いろいろな知識や情報を分かち合えるのも嬉しいことです。年末にパリで見聞きしてきた舞台芸術についての感想を興味深く聞いていただけたのも嬉しかったです。

現在、まだまだ仕事やその他の活動のために、折角サポーターのために企画して下さった研修会や交流会に出席できないことが多いのですが、今年はもっと積極的に参加させていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

今後、経済的な困難が予想されるそうですが、「びわ湖ホール」が、これからも「素晴らしい芸術の提供の場」として、西日本の芸術の中心的存在になりますように応援しています。

劇場サポーター活動を振り返って

２００９・１・３１

第１２期　岡崎英子

丁度今日のような寒い朝にサポーター面接に、、、、一年近く過ぎてしまいました。音響のよいすばらしい劇場とあこがれた所にサポーターとして参加できることに少し興奮を覚えました、、、、が　毎月送られてくるパンフを手にＰＲ活動にあるきつつ、まるで砂漠に水を撒き散らして居るような感じを覚えました。地域性なのか関心の有りようがまるで違いびわ湖ホールの話をするだけで別人扱いに、、、、？浮き上がってしまうのが実情でした。
途中で頭を切り替えて『一年間は私自身の関心のある演目にのみ』一人でも出かけることにしました。それと共に自主交流会に参加して皆さんの情報や知識などｅｔｃ，ｅｔｃサポーター一年生の最大の収穫でした。

巷の人々が二言目に言われるように、、、、びわ湖ホールの建物の威容が気さくに誰にでも「ウエルカム、ようこそ！！」のオープンな建築物ではないことが二重三重にあそこは別物の印象があります。このことは変更の余地は無く、いつも足を運ぶ度に美しいマザーレイク、びわこを眺めつつ残念な重いです。

先日の職員の方達とのお茶会で私なりに活動の有りようが理解できましたので積極的に活動が出来そうに思いました。

# 劇場サポーター活動報告

第12期　奥田牛乳子

・サポーター、と胸を張って言えるような活動もなかなか出来ず。
あくまで草の根運動レベルでの1年間でした。すみません。

・けれど、京都からびわ湖ホールが案外近い！という事を
京都在住の友人たちに体感してもらえたのではないか、と思います。

・これからも地道な活動ですが、少しでも何かのカタチで、びわ湖
ホールに貢献できたらいいな、と思っております…

→ 私事ですが、2月に結婚して拠点が伏見区から左京区に
移ります。
左京で新たな層の発掘に励みます!!

よろしくおねがいします　ペコリ

劇場ｻﾎﾟｰﾀｰ 活動記録集　**びわ湖ホールのレパと朝日舞台芸術賞**　12期　倉本　直治

朝日舞台芸術賞が設置されて７年、第７回の各賞が先日、発表になった。

以下●は当ﾎｰﾙ に来演した方、または上演された演目
第１回のｸﾞﾗﾝﾌﾟﾘ に野田秀樹脚本・演出、中村勘九郎主演の「野田版・研辰の討たれ」
　　寺山修司賞に●伊藤キム（びわ湖ﾎｰﾙ に来演。ｹﾞｷﾌﾟﾛを見学）
　　秋元松代賞に●永井愛（作・演出の３演目あり・ 3月に「歌わせたい男たち」）

第２回のｸﾞﾗﾝﾌﾟﾘ ●平田ｵﾘｻﾞ ・金明和作、李炳君・平田ｵﾘｻﾞ 演出「その河をこえて五月」
　　寺山修司賞はﾏｲﾑ 集団水と油
　　（●寺山の名遺作「奴婢訓」は先年、当ﾎｰﾙ で上演された）

第３回のｸﾞﾗﾝﾌﾟﾘ は Ｗ・ｼｪｰｸｽﾋﾟｱ 作・蜷川幸雄演出「ペリクリーズ」
　　（●蜷川の演出では野村万斎主演の「オイディプス」が当ﾎｰﾙ で上演された）

第４回のｸﾞﾗﾝﾌﾟﾘ はﾕｰｼﾞﾝ･ｵﾆｰﾙ 作・栗山民也演出「喪服の似合うエレクトラ」

第５回のｸﾞﾗﾝﾌﾟﾘ が●永井愛作・演出、戸田恵子主演の「歌わせたい男たち」
　　舞台芸術賞に「敦 ― 山月記・名人伝」の構成・演出・主演で野村万斎が受賞
　　（●万斎は例年、当ﾎｰﾙ に来演し、完売の人気公演）
　　秋元松与代賞に●戸田恵子が「歌わせたい男たち」などで受賞

第６回のｸﾞﾗﾝﾌﾟﾘ は山海塾、天児牛大演出・振付・ﾃﾞｻﾞｲﾝの「時のなかの時 ― とき」
　　（●山海塾、天児牛大も当ﾎｰﾙ には例年来演し、数演目あり）
　　舞台芸術賞に●麻実れい「ｵｲﾃﾞｨﾌﾟｽ」で野村万斎と共演
　　●寺島しのぶ「書く女」で来演
　　●中村吉右衛門「引窓」で来演

第７回のｸﾞﾗﾝﾌﾟﾘ が筒井康隆原作・野田秀樹＆ ｺﾘﾝ・ﾃｨｰﾊﾞﾝ 脚本、野田秀樹演出・主演の
　　「THE BEE 」（日本ﾊﾞｰｼﾞｮﾝ ・ロンドンﾊﾞｰｼﾞｮﾝ ）

今や、政治・経済のみではなく、芸術・文化さえも、東京に一極集中してしまって、東京へ出向かなければ、大阪や京都でさえ、めぼしいレパも見られない中、かなりの演目が当びわ湖ホールで見られることは嬉しい限りで、以前から希望していることだが、ﾎﾜｲｴに開館以来の公演ポスターを掲げてくれれば「ｱｱｯ 凄ーえッ、びわ湖ホールってこんな公演して来たんだ！」と、一層、びわ湖ホールの今後の公演に期待を寄せることになるのではと強く思う。（昨年、ﾎﾜｲｴから見渡せる 3階回廊に新国立劇場所蔵の「現代演劇ﾎﾟｽﾀｰ展」（7月28日→ 8月 5日まで開催）に偶然出会い、楽しい一刻を過ごした）

劇場サポーター活動報告

12期小西幸信

私のこの一年を振り返ってみますと活動報告として此処に挙げることができるものは、びわ湖ホールの公演案内のPR活動に尽きると思います。勉強会、分科会などへの参加などにより未知の知識の習得に努める目標はすっかり疎かになっていたようで、反省しつつ次年度への気持ちの高揚を図っているところです。

さて、びわ湖ホールの公演案内PR活動ですが、私は事務局にお願いし通常頂けるものと合わせ毎月50セット分を頂戴しています。手渡しが10～15セット、郵送が30～35セットが平均です。お問い合わせ乃至ご注文があった場合に備え手元に1セットを残しています。

ボランティア活動、市民講座等で定期的にお目に掛かることが出来る方には手渡しで言葉を添えてお渡しします。その他の方には郵送となります。何れの場合も手紙を同封し封書でお届けしています。滋賀県を中心とした京都・大阪・奈良の知人・友人を対象としていますと、びわ湖ホールの存在を知らない方は殆どありませんが公演内容はご存知ないことが案外多い印象を受けます。

お届け先の反応は様々です。郵送の方はお目に掛かりました折の他、電話、メール、お手紙などで感想をお聞かせくださいます。ただ関心はあるが種々の問題でお越し頂けない方からその旨ご連絡があった場合、また概ね半年間何らの反応のない方へのご案内は以降のお届けを取り止め、また新たな方にお送りしています。それほど次々と新しいお届け先があるものかとお考えになる方もあるかも知れませんが、私が活動を続けている夫々の場でびわ湖ホールのお話しをしますとご案内を求める方は容易に見付ります。お送り先のご意向を伺わずにお送りしているケースは全くありません。このようにして一年を経過しましたが、私は現在2期目になりますので本年は4年目でした。年毎にお届け先もかなり実効性が高くなっている手応えを感じています。

「この公演がびわ湖ホールで見られるとは思わなかった！」「娘と一緒に鑑賞したい。家族のコミュニケーションに役立つ。」等と仰って頂きますととても嬉しく思います。もし私がサポーターでなく、ご案内を差し上げていなければびわ湖ホールに足を向けられなかったに違いない方が例え月に数名であったとしても、びわ湖ホールの素晴らしさを自ら感じ、将来のリピーターとなって頂く可能性を生み出したことは確かなことです。お礼状、お礼の電話、メール、或いは直接でも「ありがとう」と感謝のお言葉を頂戴しますとボランティア冥利に尽きる思いがします。

最後に、このような場で申し上げるべきか躊躇しましたが一つお願いがあります。チケット購入のご連絡を頂いた後チケットセンターにファックスをお送りするのですが、お振込用紙が送られ振込みを済ませた後、手元にチケットが届くまでに少し時間が掛かるように思えます。私が簡易書留でチケットをお送りします時の手紙の書き出しは決まって、「大変長らくお待たせをいたしました。」で始めなければなりません。びわ湖ホールとしてのご決済の手順もあろうかと存じますが、お客様の声ですから敢えて書かせて頂きました。失礼の段お許し下さい。

この程びわ湖ホール事務局から次年度への継続の意思を尋ねられ、勿論継続の旨ご返信いたしました。次年度はサポーターの集いなどへも極力参加させて頂きたいと考えています。分科会への参加の関心はありますが、専門知識がない所為で参加しても居場所がないのではないだろうかと不安が先に立ちどうしても敷居の高さを感じてしまいます。どうぞよろしくお願いいたします。

## びわ湖ホールサポーター2期目に向けて

12期　　柘植　智恵子

サポーターに参加して早1年が経とうとしています。

当初は、送られてくるチラシをいろんな方々にお渡しして、びわ湖ホールをPRするだけの活動だと思っておりました。が、いざ中に入ってみると、サポーター同志の自主交流会や様々な勉強会が頻繁に行われ、メンバーの方々が、年間を通じて熱心な活動をされているのには驚きました。単にびわ湖ホールに対する思い入れの深さだけでなく、皆さんの芸術文化に対する向学心と、それを広く世に普及させたいという思いが、とても強いことを感じました。しかも、活動の中心が熟年の方々であることにもびっくり！皆さんの年齢を感じさせないみずみずしい感性とパワフルさには圧倒されるばかりです。

人間の脳内では、人に何かをプレゼントしてもらった時より、人に何かをプレゼントしてあげた時の方が、体に良いホルモンが分泌されるそうですから、びわ湖ホールが次々に企画してくれる素敵なプレゼントを、一人でも多くの方に分けてあげたいと願うサポーターの方々に、元気な方が多いのは当然なのでしょう。

一年目は、右往左往しているうち、あっという間に過ぎてしまいました。来期はできるだけいろんな活動に参加して、先輩サポーターの皆さんのパワーをいただき、もっともっと積極的にびわ湖ホールをPRしたいと思います。そして一人でも多くの方に、良質の芸術文化を広められればと思っています。

第 12 期　馬場好美

まずびわ湖ホールの芝居は値段が手頃でまた有名な人が出演されている芝居が多いので身近な友人知人を誘って芝居を見ました。

また大学のサークルの部室にビラを置き友人たちに広告しました。

また、自分自身今回サポーターになったことで他のボランティアの方に刺激をいただき去年の10月に大阪の小劇団に参加させていただき芝居をうってみました。これを機に芝居に興味がなかった友達にも芝居を見てもらえたと思います。

他にも大学に小劇団をお呼びして大学の芝居にあまり馴染みの深くない人たちにも芝居にふれてもらえるようなイベントをうちました。

出来る限り自分も動いて体験して、そして周りにも広めていく

これが私の昨年度の活動スタンスです

# サポーターになって

１２期　　松岡　寿子

「もしも～だったら」という言葉は、昔から多く使われてきた。
「もしもクレオパトラの鼻がもう少し低かったら世界の歴史は変わっていたであろう」(パンセ) というのは、大きい歴史の動きの中でいわれたことであるが。私にとって、「もしも～だったら、サポーターになっていなかっただろう」という小さくも大きい出会いがあった。

２００７年1月、ウィンナーワルツ・オーケストラ　ニューイヤーコンサートがびわ湖ホールであった時、私はその客席にいた。そして、なぜか嬉しかった。舞台と一体になっている感覚に酔っていた。しばらくして現ＯＢの松居さんに会った時、なぜかニューイヤーコンサートの話をした。(その時は、彼がびわ湖ホールのサポーターをされていることも、否、音楽、ことにオペラがお好きであるということも、全く何も知らなかった。なのに、なぜ彼にそのコンサートの話をしたのか、いまだにわからないのだが・・・) 話し終わった私に、松居さんが言われた。
「びわ湖ホールのサポーターになりませんか？」「はっ？サポーターって？？？」
思えば、それが私のサポーターになったきっかけだった。

もし、あの時ニューイヤーコンサートをみていなかったら、そしてまた、あの時彼にその話をしなかったら、サポーターになっている私は存在しないのだ。そしてこの原稿を書くこともなかったであろう。大げさな言い方だが。

さて、サポーターになって、諸先輩、同期の方々と出会い、びっくりした。「私、ここにいていいのだろうか？何も知らない。バレーもオペラも・・音楽が特別好きという訳でもない。場違いなところに来てしまった」正直そう思った。確かに日本語を聞いているのだが、頭の上を通り過ぎていくだけ。全く入ってこないのだ。

しかし、それは最初のうちだけだった。何度か会合、あるいは研修会に参加させていただくうちに、氷が融け水が流れるように、皆さんの思いが私の身体の中に入ってきた。
送られてくるチラシを友人に配っているうち、反応が返ってきた。「チラシありがとう」「年末バレエ見に行くわ」「お正月にフィガロの結婚、主人と行くわ」「シルヴィ・ギエム、ヨーロッパで見た時良かったから、もう１度見たいわ。チケット頼める？」「ばらの騎士いいらしいね。私行くわ。もうチケット買ったのよ」そんな声が次々聞こえてきた。なんだか無性にうれしい。

で、私は、というと、お陰様でＪＲに随分貢献してしまった。特に「ばらの騎士」に至っては、数回の研修会とゲネプロと足を運び、「ばらの～」に対する思いが深まっていった。そして迎えた当日、感動を胸に家路についた。気がついてみると、感じかたも変わっていた。自動車に乗ると、習慣でラジオのスイッチを入れるのだが、今までだとオペラのアリアが流れてくると、なんだか頭に響くようでスイッチ off にしていた。ところが、今はアリアに耳をそばだてているのだから！笑ってしまう。
主人も、今まで能・歌舞伎は観てもオペラは観た事がなかった。が、なんと「カヴァレリア～」を観て以来、俄然興味を持ち始めたようで、ＴＶ，ＤＶＤも熱心に見ているのだ。「我が家もかわったねー」ふとそんな会話になった。

そこで１つ、びわ湖ホールに来ていただく人を増やす提案！
私の周りにも音楽は好きだけどオペラ、オーケストラは敷居が高いと思っている人が多い。きっとこれは世間一般にいえることではないかと思う。で、こうしたらどうかしら・・・
琵琶湖、否、滋賀県は万葉の昔からの歴史・文化にめぐまれている。旅行者も今年は源氏物語千年紀等で多く京・近江を訪れると予想される。そんな人達にびわ湖ホールへきていただく。つまり、旅行会社のツアーの中にホールで何かを観賞していただくというのを組み込めないかしら・・と思っている。例えば

① **万葉のふるさと紀行**　「あかねさす～～・むらさきの～～」の大海人皇子（天武天皇)、額田王の蒲生野から天智天皇の近江神宮～ミシガンで遊覧して遠景を眺め、最後に何がしかの舞台をたのしんでいただく。
② **紫式部によせて**　京都から石山寺を訪れ、越の国への途中のびわ湖を楽しみ、そしてびわ湖ホールでゆったりと観劇ツアー　　etc.

びわ湖ホールのロケーションは、数ある劇場でもピカイチだと思う。窓からの眺めと舞台の眺め両方楽しんでいただけると満足度アップ間違いなし！　旅行好きな人は多いし、舞台芸術の好きな人も多い。そんな人たちこそ、自分で作っている敷居を取り除けば、つまり、「あ、そうか。気楽に行けるんだ」という気持ちになっていただければ、チケットも買って下さるのではないかと思う。あとは口コミで友人達に広がっていくのではないかしら・・・？特に団塊の世代に。丁度私が友人に話したように「よかったよ。面白いよ。景色もいいし・・」と１人が少し言っていただければ、「塵も積もれば～」ではないかしらん。と思っている今日この頃である。少し楽観的すぎるかしら？

初年度は、何も分からなかった私が少し変化した時代。２年目は、もう少しでも知識を広め、深めて楽しみたいと思っています。よろしくお願いいたします。

## 劇場サポーター活動をとおして

第 12 期　安木聖子

びわ湖ホールとの出会い

私は大津市内に勤める30代OLで普段は理系の仕事をしています。これまで舞台芸術にはさほど縁がなく、「教養」として無理やり鑑賞していました。

ある日、大津駅で野村万斎の狂言の宣伝を見て、「ああ、都会でなくてもいい演目がくるのだな」と興味を持ちました。何しろ郷里の東京を離れて以来、(ファッション誌の内容のような情報やお店、就職先などが)東京に集中しているのを実感したからです。

でもそのときは狂言の敷居が高く「次回に心の準備ができていれば行こう」と見逃したのです。ところがありがたいことに次の年も同時期に公演があり、やっと行く決心ができました。

思いがけずいい席がとれ、初めてびわ湖ホールに行きました。係の方がみな親切で上品で、しかも東京の設備と比べて新しい・デザインがきれい・空いているなど、客としてはいいことずくめでした。こんないい場所「なんでみんな教えてくれないの～？」とまで思いましたが、「どうやらみんなも知らないみたい！！」。

サポーターになったきっかけ

サポーターの趣旨は自分が感動し、舞台芸術好きになり口コミでその良さを広め、チケット販促につなげるということと理解しています。ちょうど滋賀に友達を作りたいと思っていたのと、趣旨と同じ、「感動を持って勧められ、自分も観に行き好きになった(シルク・ドゥ・ソレイユの「アレグリア 2」)」経験をした直後だったので応募しました。

採用のための面談は和やかに進み、すぐに採用通知をいただきました。

サポーターの活動

レクチャー付の演目があったり、詳しい方のお話が聞ける会があったり、見所、聞き所を楽しく教えていただきました。ツボを心得てから鑑賞すると面白さが何倍にもなることをはじめて知りました。

そして、とにかくチケットを1枚売ることを結果として出したいとも思いました。そこで会社や習い事先でしゃべる回数を増やしました。びわ湖ホールを知らない人が多いので、まず舞台があるホールであることからはじめ、サポーターになった経緯や会合の雰囲気などを交えてしゃべると興味を持ってもらえました。

結果、会社の友人に佐野史郎と野村万斎のチケットを買ってもらえました。2 枚も売れてとてもうれしいです。

来年度の抱負

販売の目標は3枚！！ただし、舞台芸術、演目のみならず、友達のことも好きでよく知っていないと誘いにくいので、来年度は友達の話をよく聞いて趣味に付き合ってみたいです。

また私個人が舞台芸術の敷居が高いと感じた理由は、①趣味のお金の使い方がわからない、②大人の振る舞いを知らない、③「チケットが取れないだろう」という思い込みでぐずぐずする、というものだったので、そこを解決しようと思います。

びわ湖ホールのおかげで今後の人生が豊かになりそうです。大ラッキーな出会いでした。

# 「私の勉強させて頂いたもの」と活動記録

１２期　　梁瀬　多嘉子

6/１７　第１回のサポータ基礎講座　コンテンポラリーダンスについてのお話

一昨年は、かなりコンテンポラリーダンスは観ていたので、復習になりました。

7/8　「いとこ同志」公演研修

個性派俳優がそろったお芝居で、舞台のセットは終始変わらぬ列車のみ、照明で場所や時の流れを変えるおもしろい劇でした。

9/２０　亀井良信＆鈴木大介

この人達のクラリネットとギターの組み合わせを、聞くのは初めてですが、これから伸びていってほしいと思います。欲をいえば私はギターのみききたかった。この日の休憩時の、飲み物のサーヴィスは有り難く思いました。

１０/6　自主交流会　「第６回オペラ　声楽分科会」に出席

私にとっては、初めてみる顔合わせでしたが、皆さん快く仲間に入れてくれました。私は美声のオペラ歌手、アントニーノ・シラグーザが歌う、カンツォーネのCDを持参した。他はオペラの（難しい曲）でしたので、息抜きになったと喜ばれました。

彼は今年６月に、オペラ「シンデレラ」に出演予定で、また観ることが出来ます。

１１/１９　「こびと……王女様の誕生日」オケ合わせ　　京響練習場へ見学に行く

本番の日が丁度、ウィーンの学友協会で、世界の恵まれない子供達の為の「国境なき合唱団」のチャリティーコンサートの日。私も参加するため観られず、嬉しく練習風景を見せてもらい、帰りに女性の出演者の方達に応援の声かけをしてきました。

２００８

1/5　オペラ「ばらの騎士」　プレトーク・マチネ

「ばらの騎士」についての魅力的な、歴史的背景、裏話……沼尻さんのピアノによる配役のテーマ解説を聞き、とても納得のいく話で、良い講座だと思いました。

プレトークの後のエラールピアノの紹介とミニコンサート、シンプルで楽しめました。

2/2　「ばらの騎士」を観に行きます。

（本当は、もっと前の方で観たかった）遣り繰りして日を空けて電話をする。１階席は残席Ｙ列―２３のみ、それでみることに。先日以前にパンフレットを渡していた多治見の人が「観に行くわ」と言っていたので、ふたりはきっと良い席が取れていると思って我慢。やはり昨年のオペラパレスとの演出の違いが観たいし、びわ湖ホールの皆さんがこんなに力を入れているのですから。

ＰＲ活動について

この１年間、出先で色々と会う人達にびわ湖ホールについてのアピール的なお話をしたり、文化施設でパンフレットの置いていない場所にはお願いして、置かせて頂いたりしました。可児市文化創造センター　多治見文化会館　美濃加茂文化会館　扶桑文化会館　ザ・コンサートホール　コーラス練習場（土岐　多治見　岐阜）等へ　　2008/01/31